

アジア薬学会議 2017 にて口頭発表

2017年11月21日から23日に中国の厦門で開催された「2017 Asian Federation for Pharmaceutical Sciences (AFPS) Conference」において英語での口頭発表を行いました。本学会は「Integration, Improvement and Innovation toward Targeted Drug Discovery」というテーマのもとで行われました。大学のみならず企業からの参加者も多く、様々な分野の研究者たちが一堂に会し、最新の知見について発表および議論を行い幅広い知識を得ることが出来ました。一堂に会した様々な分野の研究者たちの最新の知見についての発表や議論に触れることもでき、幅広い知識を得ることができました。

私は、IKV-741の徐放性製剤の開発に関する研究に従事しており、「Eudragit RS/RL®を用いた徐放化技術による体内動態制御」という発表演題で発表を行いました。IKV-741は動物の急性膵炎治療薬として優れた抗炎症作用を示しますが、血中滞留性が低く十分な薬効を得るために頻回静脈内投与が必要となります。本研究では、徐放化基材であるEudragit® RSおよびEudragit® RLを用いてIKV-741の徐放性製剤を開発し、IKV-741の放出制御および血中滞留性向上、またそれに伴う投与頻度の減少を試みました。本研究は、初めてIKV-741の製剤化に成功した研究であり、新規性が高くかつ有益な知見を対外報告および議論することができました。

本学会は自身初の海外で行われる国際学会での口頭発表ということで緊張もしましたが、大変貴重な経験をさせて頂いたと感じています。英語で発表や質疑応答をする難しさを感じ、より強く語学力向上の必要性を感じたのと同時に英語学習へのモチベーションを高めることが出来ました。本学会で得た知識や経験を今後の自身の研究に生かしていこうと考えています。このような機会を頂いたことに誠に感謝いたします。

薬食生命科学総合学府 薬科学専攻 薬物動態学講座
博士前期課程 1年 塚田 遼太

